



▲リズムカルなダンスを披露



▲おいしい食べ物もいっぱい



▲大勢の人がステージに注目



▲子どもたちに人気のスーパースポールすくい



▲千葉国体のマスコット、チーバくんも登場



ほころぶ桜やイベントを満喫 袋公園桜まつり

桜の花がほころび始めた4月4日、袋公園で桜まつりが開かれました。この日、穏やかな陽気に誘われるように、市内外から家族連れなど13,000人が来場し、花見を満喫。また、特設ステージで繰り広げられるダンスや軽快なお囃子にリズムを取ったり、30の出店から目当ての品物を買求めたりする姿が見られました。



▲木漏れ日の中、お茶を一服

危険業務従事者叙勲

【消防功労】

昭和37年、消防吏員として奉職して以来42年にわたり、卓越した知識と指導力を発揮して、消防職および団員の指導育成、資質の向上や、建築物等の予防行政に積極的に取り組み、現在の予防体制を確立させるなど、常に地域に密着した活動を実施し、信頼される消防を目指し地域住民の防火意識の高揚に貢献されました。



瑞宝双光章

片見制治さん

65歳（二）

自分で考え、作る楽しさ

発明クラブ開始式

小学校3～6年生31人と中学校2年生1人の32人が参加する旭市少年少女発明クラブの開始式が4月19日、発明クラブ工作室で行われました。ものづくりの楽しさと創作する喜びを体験できるこのクラブは、発足から27年目を迎えました。当日、工作したのは、材料に木を使った竹とんぼ。初めて使う工具に戸惑う子もいましたが、お父さんやお母さんに助けられながら、一生懸命作っていました。早速、完成した作品を手にも外に出て飛ばしてみると、屋根に乗ってしまうほどよく飛んでいました。子どもたちは、自分たちでがんばって作った作品に大満足していました。

▶出来たての竹とんぼを飛ばす子どもたち



◀いつの間にか保護者も真剣に

交通事故死ゼロを目指して

春の交通安全運動

4月6日、海上支所玄関前で春の交通安全運動出動式が行われました。出動式には、旭警察署をはじめ、交通安全協会や交通安全推進の関係団体に加入している約120人が参加しました。式終了後は、白バイやパトカーが先導し、交通事故防止をPRしながら、市内をパレードしました。また、市内4か所で交通安全協会員らが、ドライバーに啓発物を配布して、交通事故防止を訴えました。



▲啓発物をドライバーに渡す交通安全協会員

元プロレーサーの先輩からアドバイス

地域産業の担い手育成プロジェクト

▶熱心な講演を真剣に聞き入る生徒たち



農業後継者の育成や農業教育の充実を図るため、3月17日、県立旭農業高等学校に市内で園芸農業を営んでいる加瀬和英さんを講師として招き、講演会が開かれました。加瀬さんは、同校園芸科出身で、元プロのカーレーサーという異色の経歴の持ち主。現在は、家業を継いで、シクラメンなどの生花や花の苗の栽培を行い、市場での販売や、契約栽培をするなどの経営努力で、事業を進展させています。

加瀬さんは講演の中で「何でもいいから、一生懸命になれるものを見つけてほしい、その中から学ぶものがたくさんある」と生徒たちに熱心に語りかけました。質疑応答で、生徒たちから「農業に対して不安がある」「がんばっただけの見返りがない」などの意見が出ると、加瀬さんは「失敗や成功を繰り返して進化をしていかなければいけない」と生徒たちを鼓舞しました。最後は、農家を継ぐことを迷っていた生徒から「今日話を聞いて、農業をやっていけそうだった」と心強い感想も出ました。